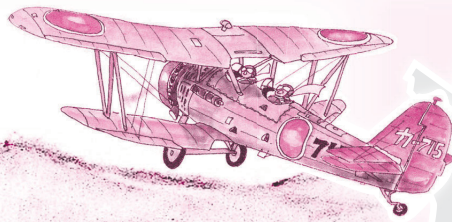


# 予科練 平和記念館だより



予科練平和記念館整備推進室では、予科練や海軍に関する資料や写真を集めています。ご存じの人はぜひご一報ください。

**平** 成20年の幕開けです。年号が「昭和」から「平成」へと変わってちようど

20年目、子どもであれば成人を迎える年です。20年前は若かったという人も、まだ生まれていなかったという人も、幸せ多い年となりますよう、お祈り申し上げます。今月号は、予科練生がつけていた日記をご紹介します。

## ●ある予科練生の日記から

今から66年前、昭和17(1942)年の元旦に、ある少年が記した日記を開いてみましょう。彼は、乙14期飛行予科練習生(予科練生:少年航空兵のこと)として、土浦海軍航空隊(現陸上自衛隊武器学校一帯)に在隊していた徳島県出身の辻始さんです。数学が得意で、飛行機の上で上官に暗算の問題を出され、全問正解して驚かせたというエピソードも残っています。

「国家挙げての総力戦下昭和十七年を迎え 齢早くも二十才(辻さんはこのときまだ18歳でしたが、当時は年齢を数え年であらわしていました)。軍隊で迎えるお正月は初めてだ」「警戒管制実施される緊張したお正月は我々を鞭打ってくれるがごとくに感じる」「朝は雑煮に数の子で故郷を偲ぶ ふるさとの味がしみじみと感じる 今更ながら父母の慈愛の厚いものがこみ上げてくる」……。

壁を一枚隔てた世間ではお正月でも、隊内は厳しい雰囲気のようにです。朝ごはんにはお正月らしいメニューが用意されますが、それがかえって家に帰れない予

科練生たちの郷愁を誘ったことがうかがえます。辻さんは続けて記します。

「今年は「不言実行」を目標とし雄雄しく進むのだ 今年に予科練を卒業する年だ 父母にも孝養の誠を尽くすのだ 今頃は母上は私のため影膳を備えてくれているだろう」

孝養とは親孝行をすること、影膳(陰膳)とは家を留守にしている人が元気でありますようにとの願いを込め、その人の分も食事を用意することです。

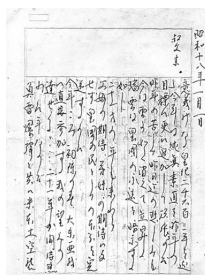
この1年後の昭和18(1943)年、予科練を卒業して大井海軍航空隊(静岡県)に移り、より実戦に即した訓練に入った辻さんは、元旦の日記に次のような抱負を書いています。

「今年に純真、素直を昨年の目標に更に追加して頑張るぞ」

そして次のような言葉も見られます。

「今年の正月、すなわち今日の日記こそ最後の正月であろう」

この言葉どおり、辻さんはこの年の7月24日、アメリカ軍の潜水艦が遠州灘で発見されたとの通報を受けて九七式艦上爆撃機に乗り出撃、そのまま消息を絶ちました。捜索隊が出ましたが見つからず、4日後に伊豆下田沖で片足を失った状態で遺体で発見されました。享年19歳でした。



- 上:最後に撮影されたと思われる写真。大井空滑走路にて
- 右上:日記帳と中に挟んでいた押し花
- 右下:昭和18年1月1日の日記

写真の日記帳「遠保栄我記(おぼえがき)」は昭和16年に発売されたもので、定価は1円50銭でした。辻さんは昭和17年元旦から約1年2か月の間ほぼ毎日日記をつけており、ページの間には時々つくしや桜などの押し花が挟まっていました。記された内容から辻さんのまじめな人柄が偲ばれるとともに、当時の予科練生の状況を知るための貴重な資料となっています。

名前は「平成」と変わりましたが、私たちが生きている現在には、辻さんが生きていた「昭和」とつながっています。忘れてはならないこの時代を伝えるため、平成20年9月から予科練平和記念館の建築工事が始まります。

※引用した日記文は現代かなづかいに直してあります。漢字は原文のままです